

平成 25 年度 教員免許状更新講習・シラバス

講座番号	6	講座名	食料供給と生命科学の接点					
担当講師		開催地	時間数	日程	主な受講対象者	受講人数	講習形式	試験方法
甲村 浩之 佐藤 之紀 村田 和賀代		サテライトキャンパス	6 時間	7 月 26 日	高等学校農業教諭	30 人 (最少開催人数3人)	講義	筆記
到達目標		生徒の主体的学習を導く授業を創造できるようになる。						
【講座の概要】								
食料供給をはじめとする農業の各分野の将来のスペシャリストを育成し、産業社会における農業の役割を確実に理解させ、創造性、科学性及び実践力を育成するには、生命科学の先端技術やその理論を基盤とした指導の下に、生徒の主体的な学習指導が不可欠である。本講習では、主として食料供給に関する科目のうち、野菜、食品化学、農業経済に焦点をあて、生命科学の最先端の理論を含めて解説する。								
【講座の内容】								
講義 1：超速で進む野菜栽培研究の現状と課題（担当：甲村 浩之）								
野菜は体の健康維持に有用とされる成分を多く含み、その種類の豊富さから食卓の彩りに欠かせない存在である。近年、「植物工場」のように、作物生産に必要な光・水・温度・炭酸ガス等の環境制御を行う高度技術が集積した施設が増加している。これに適合する品種、栽培法、新素材や新技術も次々と開発され身近になってきた。総合防除（IPM）等、安全安心にかかるシステムについても解説したい。								
講義 2：食品の成分分析の結果が意味するもの（担当：佐藤 之紀）								
野菜は健康によい。コーラは骨を溶かす。酢は体を柔らかくする。多くの受講生が信じている事項には、反対の意味を示す場合や、ある特定の条件のもとで起こる現象であって、体内では決して起こらない反応である場合もある。この講義では、まことしやかに語られているそれらの事象の真実を暴いていき、実験によって得られた事実と人間の体内で起こる現象との相違を解説する。								
講義 3：農業関連分野での貿易紛争（担当：村田 和賀代）								
日本の食生活は輸入農産物によって支えられている。しかし、農産物の輸出国と輸入国の間では、しばしば貿易紛争が起こっている。その原因は、低価格の輸入農産物を阻止しようとする保護貿易政策によるものだけではない。この講義では、農業関連分野の貿易紛争の中から、食品の安全性や防疫、環境など、農産物価格以外の紛争事項について解説する。								
【備考】								
通信機能を有しないものすべて持込可。								

注）予備日は 8 月 30 日（金）とします。